

学校编码: 10384

分类号: 密级

学号: 12220121152537

UDC

再议加藤周一的「杂种文化论」

厦门大学

硕士学位论文

再议加藤周一的“杂种文化论”

加藤周一「雜種文化論」の再考察

孙衍宁

孙衍宁

指导教师: 吴光辉 教授

指导教师姓名: 吴光辉 教授

专业名称: 日语语言文学

论文提交日期: 2015 年 4 月

论文答辩日期: 2015 年 5 月

学位授予日期: 2015 年 月

答辩委员会主席: _____
评阅人: _____

厦门大学

2015 年 月

厦门大学学位论文原创性声明

本人呈交的学位论文是本人在导师指导下,独立完成的研究成果。本人在论文写作中参考其他个人或集体已经发表的研究成果,均在文中以适当方式明确标明,并符合法律规范和《厦门大学研究生学术活动规范(试行)》。

另外,该学位论文为()课题(组)的研究成果,获得()课题(组)经费或实验室的资助,在()实验室完成。(请在以上括号内填写课题或课题组负责人或实验室名称,未有此项声明内容的,可以不作特别声明。)

声明人(签名):

年 月 日

厦门大学学位论文著作权使用声明

本人同意厦门大学根据《中华人民共和国学位条例暂行实施办法》等规定保留和使用此学位论文，并向主管部门或其指定机构送交学位论文（包括纸质版和电子版），允许学位论文进入厦门大学图书馆及其数据库被查阅、借阅。本人同意厦门大学将学位论文加入全国博士、硕士学位论文共建单位数据库进行检索，将学位论文的标题和摘要汇编出版，采用影印、缩印或者其它方式合理复制学位论文。

本学位论文属于：

1. 经厦门大学保密委员会审查核定的保密学位论文，
于 年 月 日解密，解密后适用上述授权。

2. 不保密，适用上述授权。

（请在以上相应括号内打“√”或填上相应内容。保密学位论文应是已经厦门大学保密委员会审定过的学位论文，未经厦门大学保密委员会审定的学位论文均为公开学位论文。此声明栏不填写的，默认为公开学位论文，均适用上述授权。）

声明人（签名）：

年 月 日

要 旨

「雑種文化論」の提唱者として加藤周一は、日本文化論者の中でユニークな位置づけを占めている。いわゆる「雑種文化論」とは何か、日本文化の如何なる性格を浮き彫りにしたのか、そして、21世紀に生きている我々は、如何にしてそれを認識すべきなのかというような問題意識を抱きながら、本研究では、比較文化論の立場から、文献研究や比較研究を通じて、「雑種文化論」の再考察を行うことにする。その上、21世紀における「雑種文化論」の再生の意義を探求してみたい。

第一章では、まず「加藤周一」という人物の生涯と学識を紹介し、「世界の旅人」、「知識の巨匠」という二つの面から加藤周一の人物像を捉える。次に、「雑種文化論」が提出された時期は加藤氏にとっても、日本にとっても特殊な時期であったということと、加藤氏の文筆生涯における「雑種文化論」の重要な位置づけを指摘する。

第二章では、「他者言説」と「自己展開」という二つの立場から、「雑種文化論」をめぐる論争を取り上げる。「雑種文化論」の理論構造に内在している局限性、すなわち「雑種文化論」の「時代的制約」と「文化的なパラドックス」という二つの視点から、「雑種文化論」の諸問題を見出し、自分なりの批判を試みる。

第三章では、「雑種文化論」の再生の意義を念頭に置き、「雑種文化論」を現代的な視点から再検討する。加藤周一は英・仏文化を「純粹文化」として捉え、そこから「雑種文化」の日本文化の位置づけを再樹立させようとするが、英・仏は、決して加藤周一の言う「純粹文化」ではなく、むしろ最初から「雑種性」を持っているものである。言い換えれば、「雑種性」は、必ずしも「特殊性」に拘るものではなく、むしろ「普遍性」を持っているものである。このような「雑種文化」は、世界諸国の文化の真の在り方ではないかと思われる。更に、このような普遍的な意義を有する「雑種文化」は、今の「国際化」の流れの中

で「再生」の意義を真に生かすべきなものに違いない、と私には思われる。

結論として、21 世紀における日本文化論の展開を考えれば、この「雑種文化論」は、絶対忘れてはならない視点の一つであろう。自他文化の衝突・交渉のなかで、かつ世界文化の構築の中で、加藤周一の言う「雑種性」は、回避することが出来ないものの一つであろう。このように考えてみれば、「普遍性」をも「特殊性」をも持つ「雑種文化論」は、我々が異文化を理解し、自らの文化を覚悟する在り方の一つを提示しているものではないかと思われる。

キーワード：加藤周一 雑種文化論 特殊性 普遍性

摘要

作为“杂种文化论”的提出者，加藤周一在日本文化论者之中占有一席极其特殊的位置。然而，“杂种文化论”究竟是什么？其中又刻画出了日本文化怎样的一种性格？对于生活在 21 世纪的我们来说，该如何正确的认识“杂种文化论”？基于对这些问题的思考，本研究站在比较文化论的立场，通过运用文献研究及比较研究等方法，对“杂种文化论”进行再考察。并且试图探究在当今时代之中，“杂种文化论”所具有的再生价值。

本研究的第一章首先对“加藤周一”的生涯以及学识进行了介绍。其中主要以“作为‘世界旅人’的加藤周一”以及“作为‘知识巨匠’的加藤周一”两部分为基础，试图从中把握“加藤周一”的人物形象。其次，在此基础之上，阐明不论对于日本，还是对于加藤自身来说“杂种文化论”所提出的时期都是一个特殊的时期。以及指出在加藤周一的写作生涯之中，这个时期是其思想形成的重要时期。

第二章通过他者言说以及自我言说两部分，试图对围绕“杂种文化论”所产生的争论进行考察。其后，基于上述分析，阐明加藤周一所提出“杂种文化论”的理论体系之中存在一定的局限性，具体而言就是通过分析“‘杂种文化论’的时代的制约”以及“‘杂种文化论’的文化悖论”这两点，找出“杂种文化论”所存在的问题。

在第三章之中，本研究着眼于“杂种文化论”的再生价值，对日本文化论进行再探讨。加藤周一在“杂种文化论”之中，将英法文化作为“纯种文化”，试图从中再次对日本文化进行定位。但是，笔者认为英法文化并非如加藤周一所提示的那样是“纯种文化”，或者我们可以认为，也许当时加藤看到的英法文化的确是“纯种文化”。但是，现在英法文化也失去了其“纯种性”，变为“杂种的”文化。换言之，“杂种性”不仅仅具有“特殊性”，同时也具有“普遍性”。而对这种“普遍性”的认定，我们可以从中推导出，“日本文化的杂种性”也许正是现在世界各国文化存在的一种常态。同时，笔者认为，在当今“国际化”的进程之中，我们应该真正活用这样具有普遍性的“杂种文化论”的“再生”价值。

最后,本研究提出,在对 21 世纪的日本文化论展开思考之时,“杂种文化论”是不可忽视的一个观点。并且,在自他文化的冲突和交涉以及世界文化的建构之中,加藤周一所提出的文化的“杂种性”也是我们不可回避的一个问题。由此可见,兼具“普遍性”以及“特殊性”的“杂种文化论”为我们理解异国文化以及自身文化,提供了一个很好的态度以及方式。

关键词: 加藤周一 杂种文化论 特殊性 普遍性

厦门大学博硕士学位论文摘要库

目 次

序論	1
先行研究	2
本論の立場	4
第一章 加藤周一と「雑種文化論」	6
1.1 加藤周一について	6
1.1.1 「世界の旅人」としての加藤周一	6
1.1.2 「知識の巨匠」としての加藤周一	8
1.2 加藤周一の「雑種文化論」	10
1.2.1 「雑種文化論」を提出する背景	10
1.2.2 「雑種文化論」について	12
第二章 「雑種文化論」をめぐる論争	18
2.1 「雑種文化論」の他者言説について	18
2.1.1 「歴史的相対性」への批判	18
2.1.2 梅棹忠夫「生態史観」との比較	20
2.2 「雑種文化論」の自己展開	22
2.2.1 伝統から現代化へ	22
2.2.2 日本文化の独自性	27
2.3 「雑種文化論」の局限性について	28
2.3.1 「雑種文化論」の時代的な制約について	28
2.3.2 「雑種文化論」のパラドックス	31
第三章 「雑種文化論」の意義について	34
3.1 「雑種性」から「普遍性」へ	34
3.2 「国際化」の中での日本	39
結論	43
本稿のまとめ	43

今後の研究課題	45
参考文献	47
謝辞	51

厦门大学博硕士学位论文摘要库

目 录

序论	错误！未定义书签。
研究综述	错误！未定义书签。
本论的立场	错误！未定义书签。
第一章 加藤周一与“杂种文化论”	错误！未定义书签。
1.1 加藤周一的介绍	错误！未定义书签。
1.1.1 “世界旅人”加藤周一	错误！未定义书签。
1.1.2 “知识巨匠”加藤周一	错误！未定义书签。
1.2 加藤周一的“杂种文化论”	错误！未定义书签。
1.2.1 “杂种文化论”提出的背景	10
1.2.2 “杂种文化论”内容介绍	错误！未定义书签。
第二章 围绕“杂种文化论”的争论	错误！未定义书签。
2.1 “杂种文化论”的他者言说	错误！未定义书签。
2.1.1 对“历史的相对性”的批判	错误！未定义书签。
2.1.2 与梅棹忠夫“生态史观”的比较	错误！未定义书签。
2.2 “杂种文化论”的自我言说	错误！未定义书签。
2.2.1 从传统到现代化	错误！未定义书签。
2.2.2 日本文化的独特性	错误！未定义书签。
2.3 “杂种文化论”的局限性	28
2.3.1 “杂种文化论”的时代的制约	28
2.3.2 “杂种文化论”的文化悖论	错误！未定义书签。
第三章 “杂种文化论”的意义	错误！未定义书签。
3.1 从“杂种性”到“普遍性”	错误！未定义书签。
3.2 “国际化”中的日本	错误！未定义书签。
结论	43
本研究的总结	43

今后的研究方向	45
参考文献	47
致谢	51

厦门大学博硕士学位论文摘要库

序論

加藤周一は1955年、『思想』という雑誌で「日本文化の雑種性」という論文を発表し、同年に出版された『雑種文化——日本の小さな希望』（東京：講談社、1955）という書にもそれを収録し、「雑種文化論」^①という理論を提出した。いわゆる「雑種文化」は、フランスから帰ってきたばかりの加藤周一が日本と西洋文化の違いを見出し、アジアに属する日本は実際のところアジア諸国とも異なり、すでに「西洋化」の要素が日本文化に浸透したという点に気づいた後、提出したものである。「西洋文明がそういう仕方で、アジアに根を下ろしているところは、恐らく日本以外にはないだろうと思われる。」^②このような違いは加藤氏の心を強く動かした。明治維新以来、「脱亜入欧」等の努力と戦後精神世界の一連の変化により、加藤氏は視野を「伝統的日本」から「雑種的日本」に目を移し、「日本文化の特徴は、その二つ要素が深いところで絡んでいて、どちらも抜きがたいということそのこと自体にあるのではないかと考え始めたということである。」^③と指摘した。加藤氏は「雑種文化」を日本文化の本質として把握する一方、西洋文明、とりわけイギリスとフランスの文化を「純粋種」として理解し、日本文化とは対照的な存在であるものと主張している。

「雑種文化論」が発表され、直ちに日本学界で強烈な反響が引き起こされ、それをめぐって多くの論争が現れた。21世紀になった現在にしても、「雑種文化論」を中心に各々の立場から展開したもの、「雑種文化論」に基づいて自説の日本文化論を提出するものも少なくない。また、中国人の学者も西欧の学者も、加藤氏の独自の文化論に大いに注目している。

21世紀は「国際化」、或いは「グローバリゼーション」の時代であると言われている。グローバリゼーションの特徴として、文化の多元化・民族の多元化・異文化の共存などが挙げられる。それが時代の主潮として進展している中、摩

^① 「雑種文化」という概念は1955年、加藤周一が発表した「日本文化の雑種性」という論文の中心理論である。同年出版した『雑種文化——日本の小さな希望』（東京：講談社、1955）という本にも収録された。本論の中では「日本文化の雑種性」を省略して「雑種文化論」と呼ばれる。

^② 加藤周一、雑種文化——日本の小さな希望 [M]、東京：講談社、1955、第31頁。

^③ 加藤周一、雑種文化——日本の小さな希望 [M]、東京：講談社、1955、第31頁。

擦・衝突・排斥等の現象が常に現れてくる。世界は何処へ行くのか、我々は何をすべきなのか、加藤氏の雑種文化論は、ただ日本文化の問題だけではなく、このような時代の課題を担っているものであると思われる。

本論では、「雑種文化論」を通じて、加藤周一の思想の立脚点を明らかにする。そして、加藤氏独自の論説に基づき、文化の雑種性という概念の普遍性と可能性を証明しようとする。最後に、「文化的共生」を唱えるグローバリゼーションの時代において、「雑種文化論」の再生の可能性を論じたい。

先行研究

1955年、加藤周一が「雑種文化論」を発表して以来、この理論に関する論説は次々と出てきた。「雑種文化論」に関する先行研究を大雑把に捉えれば、次のように纏められるであろう。

まず、1950年代、加藤氏は『思想』という雑誌で「日本文化の雑種性」を発表した後、その補説として、「雑種文化——日本の小さな希望」という本を出版した。その中で、加藤氏は自ら「追記」を書いた。この「日本文化の雑種性」と「追記」とを通じて加藤氏は、自らの出発点を確保した。すなわち、「西洋体験」を経験した日本の知識人として、日本と西洋、特にイギリス、フランスを比較対象にして、イギリスとフランスの文化を「純粋文化」として捉える一方、日本文化を「雑種文化」として理解している。その後、加藤氏は「雑種的日本文化の希望」という文章を発表し、「日本文化が、雑種的であるという事実」^①を強調し、日本文化の雑種性の意義を探求した。

次に、1980年代以降、加藤氏自身の研究だけではなく、再び「日本文化の雑種性」に言及した著作が次々と現れた。その中で、最も有名なのは、海老坂武の『戦後思想の模索——森有正、加藤周一を読む』（東京：みすず書房、1981）、元日本文化庁長官で、人類学者でもある青木保によって出版された『「日本文化論」の変容——戦後日本の文化とアイデンティティ』（東京：中央公論社、1990）という二つの著作である。「雑種文化論」を論じる専門的な研究とは言えないが、「雑種文化論」に関する論説のなかで、最も代表的なものではないか

^① 加藤周一、雑種文化——日本の小さな希望 [M]。東京：講談社、1955。第50頁。

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.

廈門大學博碩士論文摘要庫